

# Research Proposal 採択課題について

自治医科大学附属さいたま医療センター  
循環器内科  
坂倉建一

## 2015年8月に公募開始

### 公募案内(2015年8月5日)

CVIT2015代議員総会、レジストリーデータマネージャー会議で告知いたしましたとおり、Research Proposal(解析計画書)の公募を開始いたします。

### NCD登録データを利用したResearch Proposal公募の流れについて

申請期間: 2015年8月7日(火)～2015年9月30日(木)

解析結果は、Peer-Reviewを受け国際誌に公開されることがゴールとなっております。

### タイムライン

レジストリー小委員会と学術委員会による審査を経て、11月末の理事会で最終採択決定  
年間で3-4件の解析を想定しており、学術的な重要性(Novelty)と共にレジストリー解析に適したデ  
ザイン化どうか(Feasibility)、さらに国際誌への投稿の実績(Performance)により  
総合的に判定させていただきます。

2015年12月NCDに必要なデータ申請、さらに研究グループ間での秘密保持契約締結/ii>

2016年1-2月解析委員と研究グループの間で解析プロトコルを補完

2016年 解析委員 による 解析実施(データの受け渡しは一切行わず、解析は全てNCD内で行わ  
れます)

2016年4月レジストリー学術小委員会にて解析結果の確認。

解析結果を送付の後、4ヶ月以内のFirst Draft作成を目安としております。

## 公募を読んだCVIT会員としての感想

- **ゴールが明確**:「国際誌に論文報告(学会発表ではない)」
- **判定基準が分かりやすい**:「Novelty」だけではだめで、「Feasibility」と「Performance」が重要としており、ゴールである論文報告から必要な要素を割り出し、判定基準にしていると感じた。
- **タイムラインの設定**:公募から約1年位でFirst draftなので、比較的speedyと感じた。

## 公募を企画していただいたことの意義

- J-PCIという巨大なDatabaseを使って学術論文を書く⇒論文を書きたい人にとっては魅力的
- 公募でなかったなら、「私達が苦勞して、入力したデータが、誰かのPaperのためにいい様に使われている」という印象を持つ人も多いかもかもしれない
- 公募にすることで、J-PCIに参加するすべての会員にDatabase使用の機会が開かれた意義は極めて大きい

## 実際の応募書類から

解析課題名:日本におけるロータブレーター使用後の重大合併症率とその規定因子の探索

## 実際のタイムライン

時系列	イベント
2016年5月中旬	一次解析結果を頂く
2016年5月下旬	CVIT事務局にて解析委員の先生達と今後の解析プランについてDiscussion
2016年6月初旬	最終解析結果を頂く
2016年6月中旬	First draft完成し、院内(自治さいたま)および解析委員の先生方からコメント頂き修正
2016年6月下旬	査読委員である先生方からコメント頂き修正、その後全共著者の先生に回覧およびコメント頂き修正
2016年7月4日	英文Peer review journalに投稿

## 採択者として全般を通じての感想

- スケールの大きいデータから、論文を書けるのは純粹に幸せ
- このようなProjectの成否はコーディネーターにかかっていると思う
- 解析を担当頂いた先生、委員会を代表して査読頂いた先生を始め、共著者の先生方に非常に早いResponseを頂き、快適に計画が進行した

## 今後のResearch Proposalに期待すること

- Accepted manuscriptをCVIT HPIにlinkを貼ってNewsとしてお知らせなど
- 副賞として研究費(30万円程)をつける(英文校正費、Open access journal(JAHA等)の費用、accept後の学会発表費補助など)
- Authorとしての役割の明確化(採択者がFirst author, 統計解析者がsecond authorなど)